

Rapport (ラポール) とは、仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。  
多摩大学広報誌「Rapport」は、多摩大学と多摩大学サポーターをつなぐ  
コミュニケーション誌です。

発行者／多摩大学 発行日／2017年6月30日  
東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1 TEL：042-337-1111 FAX：042-337-7103  
<http://www.tama.ac.jp/>

# Rapport

2017  
Number

098

多摩大学 | 広報誌 |

## Vol.98 Contents

多摩大学 2016年度 褒賞者／多摩大学体育会フットサル部	02-03
2017年度 入学式／学部長 挨拶	04
教員紹介	05
キャリアサポート：2016年度 就職状況	06
グローバルスタディーズ学部 後援会定期総会報告	06
平成28年度 学校法人田村学園概要	07
News	07
『アクティブ・ラーニング支援センター』図書館にオープン	08

# 多摩大学 2016 年度 褒賞者

※学年は 2016 年度（秋学期）のものとなります。

## 2016 年度 秋学期 成績優秀者奨学生

学業及び成績が優秀で人物及び健康ともに優れ、他の規範となる学生に対して、多摩大学奨学金規程に基づき審査を経て区分に応じた奨学金を支給しています。

### ●経営情報学部

#### ■ 1 年次

##### ・区分 1

学生氏名
野田 航平

#### ■ 2 年次

##### ・区分 1

学生氏名
茂木 佑馬

#### ■ 3 年次

##### ・区分 1

学生氏名
濱島 健吾
山崎 啓道

##### ・区分 2

学生氏名
伊城 大樹
岩下 結
大輪 憲生
小野沢 瞳
川村 千夏
北村 聡一郎
窪田 楓
栗原 萌
小室 剛
関 謙二郎
徳光 李央
永木 博也
中島 麻莉奈
浜崎 周平
早川 礼奈
平辻 健太
宮澤 隆夫
山村 香織
渡部 稜

##### ・区分 2

学生氏名
阿部 慎吾
荒井 綺花
磯本 昇
笠原 敏幸
紙谷 祐輔
茅島 佑樹
川田 浩大
坂本 尚平
嶋崎 慧
副島 幸奈
田中 雄大
坪崎 遥香
長田 直人
早坂 一哉
古橋 明日香
増田 悠斗
村上 なな
横井 光
森部 佳奈

##### ・区分 2

学生氏名
青木 湊
市村 侑己
岩野 元輝
嘉悦 蓮
佐藤 朱音
佐藤 駿多
佐藤 竜郎
下野 咲子
高瀬 和希
外山 巧也
中村 有梨沙
二宮 悠輝
樋口 裕也
藤田 侑也
藤ノ木 つぶら
水谷 勇希
彌田 広海
吉野 睦

### ●グローバル・スタディーズ学部

#### ■ 1 年次

##### ・区分 1

学生氏名
眞壁 なな

#### ■ 2 年次

##### ・区分 1

学生氏名
森 舞子

#### ■ 3 年次

##### ・区分 1

学生氏名
フランク スカイ

##### ・区分 2

学生氏名
川上 理沙
田原 朋美
中村 叶
長谷川 文哉
原 佳子
原田 花鈴
堀口 奈々

##### ・区分 2

学生氏名
金澤 一輝
宋 凱茹
W イスル B
津留崎 帆南
西田 良太
峰岸 萌香
森川 和洋
山梨 みのり
Wang Yi

##### ・区分 2

学生氏名
小野寺 武仁
ジルマン アユミイタ
田口 杏
竹澤 秀明
坪井 優奈
沼田 祐真
原 周平
松尾 奈未
安永 有祐美

※学籍番号順

## 経営情報学部 2016 年度 褒賞者

【2016 年度 最優秀学生賞】 大学在学中 4 年間を通じて総合的に最も優秀な成績を収めた者及び本学学生として模範的行為のあった者

及川 美穂	大貫 瑠奈	奥村 亜瑞美	永井 惇	渡邊 十夢
-------	-------	--------	------	-------

【2016 年度 学長賞】 本学学生として模範的行為のあった者または団体

学生氏名・団体名	内 容
多摩大学体育会フットサル部	全日本大学フットサル大会 2 年連続全国 3 位

【2016 年度 学部長賞】 本学学生として模範的行為のあった者または団体

学生氏名・団体名	内 容
樋口 裕一ゼミ	多摩大学クラシックコンサートプロジェクト

【2016 年度 秋学期 社会・研究活動賞】 コンテスト等において優秀な成果もしくは課外活動で全国大会に出場する等顕著な成績をおさめた者または団体・在籍期間を通じて学生会等の活動にて特に貢献のあった者・優れた研究成果又は論文を発表した者または団体

学生氏名・団体名	内 容
ことたま通信 岡部 里那	2016 年度多摩祭 ミス・ミスターコンテスト
ことたま通信 廣野 樹梨	2016 年度多摩祭 ミス・ミスターコンテスト
ことたま通信 日比谷 翼	2016 年度多摩祭 ミス・ミスターコンテスト
インターゼミ アジアダイナミズム班	論文「長崎が拓いたアジアとヨーロッパの交流」の完成
インターゼミ 多摩学班	多摩ニュータウン再生に関する研究
出原 至道ゼミ Laval Virtual 応募チーム	「Laval Virtual」展示権 (Weekend) 獲得
梅澤 佳子ゼミ	世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト
梅澤 佳子ゼミ	みんなの食卓プロジェクト
中村 その子ゼミ メディア班	FM 西東京などの情報発信



学長賞 (フットサル部)



社会・研究活動賞 (1 年生)



社会・研究活動賞 (2 年生)



学長賞、社会・研究活動賞 (3 年生)

【2016年度 秋学期 優秀学生賞】

- ① 各講義科目において顕著に優れた成績を収めた学生
- ③ 成績向上が顕著な者 (GAP の向上等を基準)

- ② 教育補助 (SA) として著しい功績があった者
- ④ 学業に対する取組が真摯で他の模範となる者

◎印は、選出理由

科目名	◎	学生氏名
ITコミュニケーション入門 E・F	1	平井 寛人
ITコミュニケーション入門 H	1	森田 豊繁
ITデザインII	1	田代 智美
ITマネジメントII	1	坂本 尚平
アジア経済論II	1	武内 峻
English Expression II A	1	関 謙二郎
WebデザインII	1	早坂 一哉
エネルギー・環境論II	1	徳沢 大暉
海外活動英語コミュニケーションII	4	長田 直人
韓国経済論	1	伊藤 公亮
韓国語II A	1	宮澤 隆夫
韓国語II B	1	梅津 えり菜
韓国ビジネスコミュニケーションII	1	村上 なな
管理会計入門	1	LIANG SHU XIAN
キャリア・デザイン入門 B	1	齊藤 駿介
教育相談	1	合屋 有喜穂
クリエイティブデザインII B	1	笠原 敏幸
グローバルエコノミーII	1	紙谷 祐輔
グローバルエコノミーIV	1	赤坂 英紀
グローバルビジネス入門	1	川村 千夏
グローバルヒストリーII	1	川田 浩大
グローバルヒストリーIV	1	坂本 尚平
経営とセキュリティ	1	久保 亮輔
経営組織II	1	下野 咲子
現代メディア論II	1	上原 千佳
財務会計II	1	CAO WANG
事業構想論II	1	副島 幸奈
事業デザイン論II	1	下野 咲子
実践的企業経営特講	1	高瀬 和希

科目名	◎	学生氏名
社会心理	1	磯本 昇
情報倫理	1	早坂 一哉
初級簿記 B	1	ZHOU GUO
多摩学I	1	鈴木 直樹
地域産業論II	1	JIANG YU QIAN
地域政策プランニング	1	長田 直人
地域ビジネス入門	1	野田 航平
中国ビジネスコミュニケーションII	1	玉木 真悟
データサイエンスIV B	1	二宮 悠輝
デザインワークショップII	1	茅島 佑樹
特別講座II	1	田中 雄大
認知心理	1	武田 健太
ビジネス戦略II	1	上杉 秀一
ビジネス入門II B	1	岡田 充希
ビジネス入門II B	1	貝守 光希
ビジネス入門II A	1	CAO WANG
Practical English Conversation II	4	坂本 尚平
Practical English Conversation II	4	山崎 大
プレゼミII	2	石橋 直斗
プレゼミII	2	水口 輝
プレゼミII	2	赤坂 英紀
プレゼミII	2	石橋 直樹
プレゼミII	2	大塚 裕紀
プレゼミII	2	鹿子嶋 大輝
プレゼミII	2	小金澤 万史
プレゼミII	2	佐藤 夏美
プレゼミII	2	柴田 はるな
プレゼミII	2	下野 咲子
プレゼミII	2	張 鵬哲

科目名	◎	学生氏名
プレゼミII	2	西尾 創太
プレゼミII	2	濱島 健吾
プレゼミII	2	藤田 侑也
プレゼミII	2	松若 希
プレゼミII	2	溝呂木 翼
プレゼミII	2	市川 侑弥
プレゼミII	2	岩田 奨悟
プレゼミII	2	岡部 里那
プレゼミII	2	金木 雄也
プレゼミII	2	木谷 花子
プレゼミII	2	今 建太
プレゼミII	2	鈴木 悠哉
プレゼミII	2	高橋 歩夢
プレゼミII	2	月岡 美苗
プレゼミII	2	山崎 大
ベンチャー企業論	1	荒井 綺花
マーケティングマネジメント論	1	山村 香織
マーケティングモデリング	1	新保 貴之
問題解決メソッドIII	1	加藤 和浩
問題解決学入門II	2	渡邊 十夢
余暇マネジメントII A	1	荒井 綺花
余暇マネジメントII B	1	関 謙二郎
ライフ・デザイン A	1	酒井 友梨佳
立志論IV	1	荒井 綺花
	4	XIE SHAO FANG
	4	LI WAN QING
	4	LI QIAN CI
	4	JEON SANGCHEOL

※科目名 50 音順



優秀学生賞 (1年生)



優秀学生賞 (2年生)



優秀学生賞 (3年生)

多摩大学体育会フットサル部

<http://www.tama.ac.jp/futsal/>

■ 2017年度 新入部員の紹介



安井 嶺芽 6

【ポジション】アラ  
【抱負】チームに貢献できるように頑張ります



南雲 颯太 11

【ポジション】アラ、フィクソ  
【抱負】誰にも負けない身体を作る



木村 芳之 15

【ポジション】ピヴォ、フィクソ  
【抱負】チームに貢献する



石井 宗人 17

【ポジション】ピヴォ、アラ  
【抱負】日本一!



加山 直明 24

【ポジション】アラ、ピヴォ  
【抱負】練習も試合も全力を尽くす



松山 尚輝 39

【ポジション】アラ  
【抱負】常に考えてプレーする



第13回全日本大学フットサル大会  
東京都予選 優勝! 関東大会進出!!

2017年6月11日、多摩大学アリーナにて東京都予選が行われ、準決勝で明治学院大学 SAjugaria、決勝で東京大学さんばち先生を下し、見事優勝しました。

関東大会は2017年7月8・9日、千葉県立館山運動公園体育館にて開催予定です。引き続き応援よろしくお願いたします。

News 石田健太郎選手が U-20  
フットサル日本代表に選出!

多摩大学フットサル部2年生の石田健太郎選手が U-20 フットサル日本代表メンバーに正式に選出され、2017年5月16日~26日バンコクで開催された「 AFC U-20 フットサル選手権タイ 2017」に出場しました。

## 「大学の4年間は、社会で自立した人となる準備期間」

2017年4月5日、パルテノン多摩 大ホールにて、「2017年度多摩大学入学式」を挙行了しました。今年度の新入生は、経営情報学部 406名、グローバルスタディーズ学部 183名、計 589名です。

寺島実郎学長は、「大学生活の4年間は、社会に出て経済的に自立するための準備期間。自立するには、自分で考える力を身につける必要があり、判断力の根拠となる学びを蓄積し、友人や教授陣との人的ネットワークを整えて社会に出ていく。大学生として視界に入れておくべきことの一つは高齢化社会。この先60年間は生きていくことを視界に入れた人生設計図を描き、どのような仕事に従事し社会貢献をしていくかを考えなければなりません。もう一つはアジアダイナミズム。昨年、日本の貿易に占めるアジアの割合が5割を超え、訪日外国人2,400万人のうち、8割はアジアの人々でした。物流（貿易）・人流（人の動き）とともにその動きをビジネスモデルにどう結びつけていくのか、アジアダイナミズムに正面から向き合うことが重要です。大学で社会科学を学ぶ人として、時代を認識する力をしっかりと身につけ、そのために必要な人的ネットワークを築く努力をしてほしい。4年間頑張った人間は必ず自分で道を切り開き、チャンスをつかっていくことでしょ」と新入生に励ましの言葉を贈りました。

引き続き、学校法人田村学園 田村嘉浩理事長は、「『現代の志塾多摩大学』で志をしっかり培い、社会に出たときに実現できる力を身につけてほしい。大学で学んだことのすべてを仕事の上で活かしていくという覚悟と信念をもって、学生生活を過ごしてください。4年後には実社会で活躍できる人材として、巣立って行ってもらいたいと思います。皆さんの4年間が輝ける日々となることを心よりお祈りします」と祝福しました。来賓の阿部裕行 多摩市長、多摩信用金庫 八木敏郎理事長が祝辞を述べ、経営情報学部の青田教常さんとグローバルスタディーズ学部の林詩芸さんが新入生代表として、これからの大学生活への抱負と期待を述べました。

式典終了後は各学部で会場を別にして保証人の方々を対象に、多摩大学の教育理念と方針・学生サポート・専任教員・後援会などについて紹介と説明を行いました。



祝辞を述べる寺島学長



経営情報学部(左)、グローバルスタディーズ学部(右)の新入生代表



入学式に臨む新入生たち



経営情報学部 保護者向け説明会

### 学部長挨拶

#### AL(アクティブ・ラーニング)によって 問題解決力を育てます

経営情報学部長 杉田 文章

経営情報学部の特色について2点お伝えいたします。第一は「ゼミを中心とした教育」です。これは、「経営教育とは『経営実学教育』であり、志と実践的問題解決力を育てること」という開学以来引き継がれている理念に基づいています。学生一人一人の思いにきめ細かく対応し、指導していくには、少人数のゼミこそが有効です。本学部では、初年次の「ブレゼミ」に続き、2年次から本格的に分野を定めてゼミや講義を通じた実践的学修を重ねていくこととなります。およそ半分が産業界出身、という教授陣が、これを受け止めます。

特色の第二は、「AL(アクティブ・ラーニング)」です。経営分野では、知識や技能だけでなく、志と実地の問題解決力が重要です。そのためには講義に加えて様々な能動的体験が必要であると考えています。留学、地方の産業・企業の視察研修、海外国際会議への参加、地域の問題解決の実践など、さまざまな学生のニーズに応えられるよう、多様なプログラムを用意しております。また通常の講義も、学生の能動的学修を促すよう、ALの要素を取り入れています。本学部はこうした教育の特色を生かし、ローカルとグローバルの関係性を深く理解した上で自分の強みを発揮できるような高い志を持った人材の輩出に努めてまいります。



#### 地元をグローバルに発信する学部

グローバルスタディーズ学部長 安田 震一

多摩大学グローバルスタディーズ学部は神奈川県藤沢市に設置された学部です。本学部が現在、最も力を入れているのは藤沢市、藤沢市観光協会と連携し、江の島で開催される2020年東京オリンピック・パラリンピックのセーリング競技のお手伝いをさせていただくことです。また、オリンピック競技に関しては2018年にテスト・マッチ、2019年にプレ・オリンピックなどが開催されます。さらに、2018年から3年間連続でセーリングのワールドカップも江の島にて開催されます。

グローバルスタディーズ学部の特色としては、英語を中心としたコミュニケーション力の向上、2年次からは観光学を中心としたホスピタリティ・マネジメントコース、そして英語教職課程、国際理解やビジネスを中心とした国際教養コースなどでございます。2017年度は、編入生1名を含めた184名の新入生を迎えることができ、この学年は2020年までのセーリング競技に関連するすべてのイベントに参加することになります。

グローバルスタディーズ学部は、地元に根付き、グローバルに発信できる学部を目指しております。



## 資格取得を通じた学修の習慣づけ

私の専門はマーケティングですが、授業ではビジネス系の資格取得を奨励しています。具体的には、国家試験である「ITパスポート」や、国家資格である「宅地建物取引士」、そして流通系唯一の公的資格である「日商流通マーケティング検定」などです。

いずれもマーケティングに関する内容が含まれており、可能な限り出題傾向を意識して授業を構成しています。また、資格取得を目指すには、こつこつ学びを進めていく必要があります。授業外での予習復習を可視化しています。多摩大学での現状としては、予習復習率がおよそ6割程度ですが、前任校での実績である予習復習率9割以上を目指して頑張っており、そして結果にもコミットしていきたいと思っています。関心のある学生は、ALC3階「学修サービス」までお越し下さい。

## 中小企業支援を通じて、地域を活性化させる

私は、これまで中小企業経営、特に中小企業の海外展開について研究を行ってまいりました。海外展開する中小企業は、近年増加傾向にあります。そうした状況にもかかわらず、既存研究の多くは、大企業について論じたものであり、中小企業に関する研究蓄積は十分とはいえません。私は、中小企業独自の理論構築を目指すとともに、中小企業の海外展開を継続的に支援したいと考えております。

また、ゼミでは、「中小企業支援を通じて、地域を活性化させる」をテーマに、フィールドワークを重視した様々な取り組みを行っております。中小企業や地域の現場に、学生とともに積極的に飛び込み、支援することで、地域の活性化に貢献したいと考えております。

## 歴史と現代をつなぎ、異文化から日本を見る

現代社会では簡単に多くの情報へ触れます。しかし情報が多すぎれば、往々にして思考は停止してしまうものです。そのような時代であればこそ、相手を理解し自分を再考する想像力が必要です。古代中国を生きた思想家の孫子は「彼を知り己を知れば百戦あやうからず、彼を知らず己を知らざれば戦うごとに必ずあやうし」と述べています。これは今日を生きる人々にも必要な言葉でしょう。

私は日中の近代そして現代の官僚社会について研究してきました。中国は古来より「役人天国」で、今でも官僚は社会の中心です。そんな中国社会、日本とどこが同じで何が違うのか。そうして地域や歴史から複眼的な“気づき”を磨いていきたいと思っています。

## 地域の抱える課題を自分事として捉え、自分なりのアイデアで解決する力

私は、主に地域系の科目（地域産業論、多摩学、地域ビジネス入門等）を担当しています。授業内では、優れた中小企業や地域活性化の事例分析を行ったり、関連する動画を視聴することで、地域が直面する課題をより現実的に理解してもらえるように努めています。また、日本全体における地域の問題を捉える「マクロの視点」と、個別の地域、例えば多摩地域の問題を捉える「ミクロの視点」を併せ持って思考することができるよう、幅広いテーマを取り扱っています。授業を通じて、地域の抱える課題を自分事として捉え、自分なりのアイデアをもって課題解決を図ることができる人材になってほしいと思います。

授業科目の他には、学生の能動的な学びをサポートする「学修サービス」を担当しています。学生の皆さんが、快適で充実した大学生活を送ることができるように、一人ひとりに適したきめ細やかな支援を心がけてまいります。

## 小西 英行

(コニシヒデユキ)  
経営情報学部 准教授

〈プロフィール〉  
富山県出身。慶應義塾大学大学院商学研究科後期博士課程満了。秋田経済法科大学経済学部専任講師、富山国際大学現代社会学部准教授を経て2017年4月より現職。著書に『戦略的マーケティングの構図』（共著、同文館、2014）など。



## 丹下 英明

(タンゲヒデアキ)  
経営情報学部 准教授

〈プロフィール〉  
埼玉大学大学院修了（経済学博士）。中小企業診断士。1995年中小企業金融公庫（現・日本政策金融公庫）に入庫。支店勤務、総合研究所首席研究員を経て、2017年4月より現職。著書『中小企業の国際経営』（単著、同友館、2016）。



## 水盛 涼一

(ミズモリリョウイチ)  
経営情報学部 准教授

〈プロフィール〉  
東北大学大学院文学研究科修了（博士）。上海復旦大学歴史学系に留学したほか、福島大学大学院人間発達文化研究科などの非常勤講師、東北大学大学院文学研究科の助教を経て2017年4月より現職。



## 野坂 美穂

(ノサカミホ)  
経営情報学部 専任講師

〈プロフィール〉  
慶應義塾大学商学部卒業、同大学大学院修士課程（経営学専攻）修了、同大学大学院後期博士課程（経営学専攻）単位取得退学。現在、中央大学大学院総合政策研究科博士後期課程在籍。淑徳大学サービスラーニングセンター助手、兼任講師、中央大学ビジネススクール助教を経て、2017年4月より現職。



## 観光現象から社会を読み解く！

観光現象は長年研究対象として評価されず、今日も一般的に観光を勉強・研究するということの意義を理解してもらえないことが多いように思います。まず、観光という用語から連想されるのは、産業としての観光の側面かもしれませんが、勿論、経営学的アプローチを含む実学としての観光（学）の位置づけは大変重要です。しかし、広義の観光の捉え方に基づき、多様な学問分野からのアプローチを援用しながら観光現象を考えることは、社会を理解する試みに他なりません。

学部生の皆さんと一緒に多様な観光現象を糸口に、社会や文化、経済の諸相について考察していきたいと思っています。

## 韓 準祐

(ハンジュンウ)  
グローバルスタディーズ学部 専任講師

〈プロフィール〉  
立教大学大学院観光学研究科にて博士号（観光学）を取得。立教大学アジア地域研究所特任研究員、立命館アジア太平洋大学非常勤講師、立命館アジア太平洋研究センター客員研究員、立命館大学文学部特任助教を経て、2017年4月より現職。

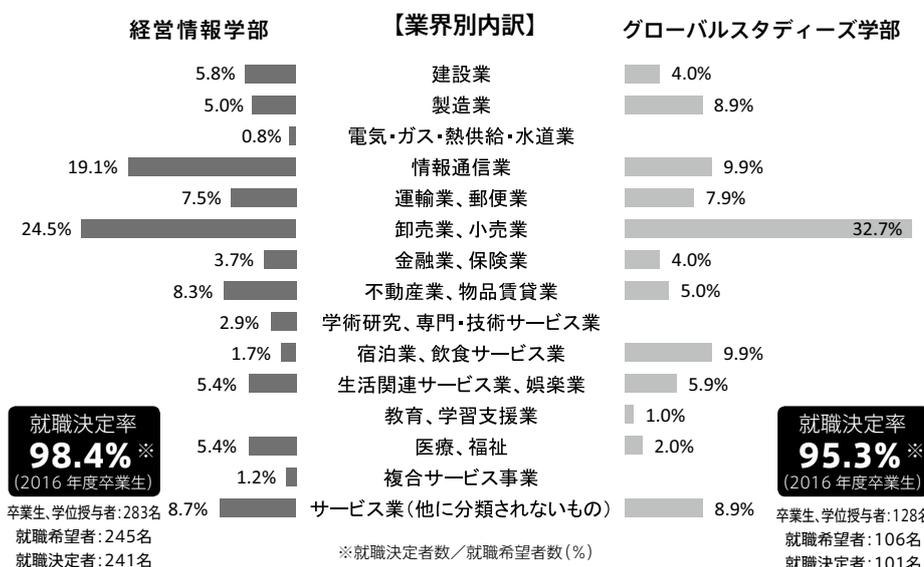


経営情報学部では、1年次は『プレゼミ』、2年次から4年次までの3年間は『ホームゼミ』に所属し、研究やプロジェクトを通して学力を身につけると共に、学内外の仲間・先生・社会人との交流を通して社会人基礎力を身につけていきます。またキャリア支援課職員はゼミごとに担当を持ち、ゼミ担当教員と常に情報を共有しながら、学生それぞれの個性に合わせてきめ細かな指導を行っています。さらに、定期的な就職に関する父母懇談会を開催し、ご家族にも就職活動に関してご理解を頂けるような環境づくりにも努めています。

グローバルスタディーズ学部では世界に通じる知性を身につけ、英語と日本語で自由にコミュニケーションができる人材の育成を目指し、国内外で豊富なビジネス経験を持つプロフェッショナルな教職員の力強いキャリアサポートを実践しています。1年次のキャリア形成論、2年次からの個別面談・グループ面談、そして2・3年次の夏休み・春休みに実施される国内インターンシップなど、早い時期から就職活動に直結する実践的プログラムを導入し、将来の進路に対する意識の確立を図っています。

## 2016年度就職状況

※2017年3月31日現在



**【主な就職先】(50音順)**  
**〈経営情報学部〉** 青山商事(株)、(株)一条工務店、(株)伊藤園、(株)エイブル、岡三証券(株)、(株)木下不動産、(株)崎陽軒、(株)京王ストア、国際自動車(株)、(株)コナカ、(株)サンケイビルウエルケア、(株)島忠、(株)しまむら、(株)ジャパンビバレッジHD、(株)セイシン企業、第一生命(株)、東京住居青果(株)、東京スバル(株)、トランスコスモス(株)、日産証券(株)、日本航空(株)、日本郵便(株)、日本ロジテム(株)、(株)ノジマ、野村證券(株)、はるやま商事(株)、日の丸交通(株)、富士ソフト(株)、(株)ベストランス、HOYA(株)、山崎製パン(株)、UCCフードサービスシステムズ(株)、(株)ユーミーネット、(株)ユニマツリタイヤメントコミュニケーション、横浜農業協同組合、(株)レオパレス21 他

**〈グローバルスタディーズ学部〉** アウディジャパン販売(株)、(株)赤ちゃん本舗、Abercrombie & Fitch、アパホテル(株)、(株)イーグルリテイリング、(株)エイチ・アイ・エス、(株)FMG、(株)がまかつ、(株)ガリバーインターナショナル、協和医科器械(株)、(株)金陽社、(株)ケーユーホールディングス、JXトレーディング(株)、スカイマーク(株)、スターツコーポレーション(株)、(株)スターフライヤー、(株)センチュリー21・ジャパン、(株)DNPメディアクリエイト、ディーゼルジャパン(株)、(株)ティルwind、デジタル・インフォメーション・テクノロジー(株)、(株)トーガン、(株)東急ストア、(株)饒田、(株)パロックジャパンリミテッド、藤田商事(株)、マスターピースグループ(株)タイランド、(株)丸山製作所、ミサワホーム(株)、森トラスト・ホテルズ&リゾーツ(株)、(株)ゆりかもめ、(株)ラウンドワン、ルートインジャパン(株)、(株)レイズインターナショナル、(株)レッドパロン、(株)ローズホテルズ・インターナショナル 他

その他、主な就職先はこちらをご覧ください。

- 経営情報学部 <http://www.tama.ac.jp/career/smis/jisseki.html>
- グローバルスタディーズ学部 <http://www.tama.ac.jp/career/sgs/005.html>

## グローバルスタディーズ学部 第9回後援会定期総会 報告

2017年6月17日 湘南キャンパスにて「グローバルスタディーズ学部 第9回後援会定期総会」を開催。学生による海外留学体験報告、安田震一グローバルスタディーズ学部長による現況報告、個別相談、懇親会がありました。個別相談は、保証人の皆様と教職員との連携強化を目的に今年度新たに実施したものです。

### ○後援会定期総会

第1号議案(平成28年度事業報告・決算報告・監査報告)、第2号議案(平成29年度後援会役員の選出)、第3号議案(平成29年度事業計画・予算)について審議し、承認されました。

### ○第1部 海外留学体験報告(国際交流センター)

グローバルスタディーズ学部の海外留学には、海外を体験する海外研修(1週間)、春・夏休みを利用した短期留学(3~5週間)、そして長期留学(3ヶ月~1年間)があります。今回の定期総会では、2016年度にアメリカ(短期1名)・ニュージーランド(短期2名)・カナダ(長期4名)の大学に留学した学生7名が英語で留学体験を発表しました。

### ○第2部 SGSの現況(安田震一グローバルスタディーズ学部長)

藤沢市および藤沢市観光協会と提携する多摩大学の地域連携活動、提携校である公立名城大学(沖縄県)でのマリンスポーツ授業体験など、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れた人材育成への取り組みを紹介しました。また、SGSのミッションは「グローバル人材の育成」とし、①少人数制 ②英語教育 ③留学プログラム ④面倒見が良い(インターンシップ・キャリア教育)の4要素を説明。カリキュラムや教育内容、海外留学制度、就職実績についても解説しました。

### ○個別相談

テーマ別(学生生活・留学・就職関連・授業や単位関連)に各教室に分かれて、保証人の皆様からの疑問や相談に教職員が対応、情報交換の場としても有意義な時間となりました。

### ○懇親会

個別相談終了後、カフェテリアにて懇親会を行い、保証人の皆様と教職員が和やかに歓談し交流を深めました。



定期総会にて役員に選出された皆様



海外留学体験を発表する学生



安田震一学部長による説明



保証人様と教職員との個別相談



懇親会の様子

# 平成 28 年度 学校法人田村学園概要

多摩大学の経営母体である学校法人田村学園は、私立学校として積極的に情報開示をしております。最新の田村学園概要は、以下のとおりです。

(学校法人 田村学園 貸借対照表)

## 貸借対照表

平成 29 年 3 月 31 日 (平成 28 年度)

(単位：百万円)

資産の部	前年度末	本年度末	増	減
科目				
固定資産	22,135	22,660	525	
有形固定資産	20,217	19,924	△ 293	
土地	11,746	11,746	0	
建物	7,392	7,146	△ 246	
その他	1,079	1,032	△ 47	
特定資産	1,792	1,892	100	
第 2 号基本引当特定資産	1,700	1,800	100	
第 3 号基本引当特定資産	92	92	0	
その他の固定資産	126	844	718	
電話加入権	5	5	0	
その他	121	839	718	
流動資産	5,024	4,793	△ 231	
現金預金	3,928	3,973	45	
その他	1,096	820	△ 276	
資産の部合計	27,159	27,453	294	
負債の部				
科目	前年度末	本年度末	増	減
固定負債	375	379	4	
長期借入金	2	2	0	
退職給与引当金	373	377	4	
流動負債	1,081	1,083	2	
短期借入金	1	1	0	
前受金	792	797	5	
その他	288	285	△ 3	
負債の部合計	1,456	1,462	6	
純資産の部				
科目	前年度末	本年度末	増	減
基本金	31,751	31,878	127	
第 1 号 基本金	29,562	29,634	72	
第 2 号 基本金	1,700	1,800	100	
第 3 号 基本金	92	92	0	
第 4 号 基本金	397	352	△ 45	
繰越収支差額	△ 6,048	△ 5,887	161	
翌年度繰越収支差額	△ 6,048	△ 5,887	161	
純資産の部合計	25,703	25,991	288	
負債及び純資産の部合計	27,159	27,453	294	

(平成 28 年度 学校法人 田村学園 計算書類 抜粋)

(資金収支)

(資金収入) (単位：百万円)

学生生徒等納付金収入	3,717
手数料収入	67
寄付金収入	59
補助金収入	1,186
資産売却収入	416
付随事業・収益事業収入	168
受取利息・配当金収入	28
雑収入	182
その他	△ 151
前年度繰越支払資金	3,928
合計	9,600

(資金支出)

人件費支出	3,132
教育研究経費支出	1,071
管理経費支出	448
借入金等利息支出	0
その他	975
翌年度繰越支払資金	3,974
合計	9,600

(事業活動収支)

(単位：百万円)

学生生徒等納付金	3,717
手数料	67
寄付金	59
経常費等補助金	1,165
付随事業収入	164
雑収入	182
<b>教育活動収入合計</b>	<b>5,354</b>
人件費	3,136
教育研究経費	1,476
管理経費	480
その他	17
<b>教育活動支出合計</b>	<b>5,109</b>
教育活動収支差額	245
教育活動外収入	30
教育活動外支出	0
教育活動外収支差額	30
<b>経常収支差額</b>	<b>275</b>
特別収入	22
特別支出	9
特別収支差額	13
<b>基本金組入前当年度収支差額</b>	<b>288</b>
基本金組入額	△ 172
当年度収支差額	116
前年度繰越収支差額	△ 6,048
基本金取崩額	45
翌年度繰越収支差額	△ 5,887

(参考)

事業活動収入 合計	5,406
事業活動支出 合計	5,118

(平成 29 年度)

・学生・生徒等 (人)	田村学園全体	4,782
	多摩大学	
	学部	
	経営情報学部	1,406
	グローバルスタディーズ学部	603
	多摩大学 大学院	104
	高校 (2)・中学 (2)・幼稚園 (3)	2,669
・キャンパス面積 (㎡)	田村学園全体	114,228
	多摩大学	44,913
	その他	69,315

以上、平成 29 年 5 月 1 日 現在

## News

### アジアダイナミズム濟州島研修参加

経営情報学部 教授 趙 佑鎮

世界の 69 カ国 4000 人が集った「第 12 回済州平和フォーラム 2017」(2017 年 5 月 31 日～ 6 月 4 日) に経営情報学部生、大学院生等の 39 人が参加した。単位認定を伴う海外留学体験入門編として位置づけられる本研修は、アジアの時代に適した国際センス、政治・経済・外交等の教養面での複眼的見方と人生・職業観を学生に意識させることを主眼とする。参加学生は、ノーベル平和賞受賞者アル・ゴア元アメリカ副大統領(テーマ「気候変化の機会と挑戦、より良い成長は可能なのか」)やメガワティ元インドネシア大統領等の各国トップによる基調講演、討議など、地域の多国間対話と世界のビジネス最前線を肌で感じ、国際関係とビジネス ICT への深い洞察とアジアの協力と発展についての知見を深めることができた。参加 5 年目となる今年は、済州平和研究院訪問に加え、済州漢拏大学との国際交流提携を締結するための調印式と学生交流会を開催した。また、初の試みとして高大連携の一環で多摩大学目黒中学高等学校の生徒が参加した。キム・ソンフン済州漢拏大学総長とソ・ジョンハ済州平和研究院院長兼済州フォーラム組織委員長は、研修団長の田村嘉浩田村学園理事長、引率の教職員及び学生に対し、今後の多摩大学済州島研修について日韓における民間レベルの貴重な交流として全面的協力支援を表明した。



学生と田村理事長の4次産業革命セッション参観 学生交流会 田村嘉浩理事長挨拶

### 「大いなる多摩学会」2017 年度総会 開催報告

2017 年 6 月 10 日、高幡不動尊金剛寺信徒会館にて「大いなる多摩学会」2017 年度総会を開催し、52 名の参加がありました。始めに副会長の久恒啓一副学長が開会の挨拶を述べ、続いて会長の寺島実郎学長による基調講演を行いました。年次総会議長は久恒啓一副学長が務め、事務局の松本祐一准教授より、学会ロゴとホームページの運用開始、学会誌創刊などの報告を含む第 1 号議案 2016 年度事業報告(案)・収支決算見込み、第 2 号議案 2017 年度事業計画(案)が報告され、承認されました。その後、会員が取り組む 4 つの研究プロジェクトについて各自が研究成果を発表、「ワークショップ TAMA2030」では、「2030 年の未来を見据えて大いなる多摩学会は何を研究し何を開発すべきか」をテーマに 5 グループに分かれてディスカッションが活発に繰り広げられました。



寺島実郎学長の講演 ワークショップの様子

# “アクティブ・ラーニング支援センター”が多摩キャンパス図書館にオープン

多摩大学の実学教育は、問題解決学であり、ゼミで培ったさまざまなアクティブ・ラーニングの教育手法を講義でも展開し、学生の学びを支援してきました。この支援を加速するために、2017年4月1日、新たに“アクティブ・ラーニング支援センター”を図書館に開設しました。良質な体験型講義「アクティブ・ラーニングプログラム」を多く配置するとともに、多様なシチュエーションに対応した学修施設を用意し、学生にとって馴染みやすく快適に自習・コミュニケーション、グループワークができる環境を提供します。

## 充実したキャンパスライフを体感できる場所

アクティブ・ラーニング支援センター長・経営情報学部 教授 金 美徳

### “アクティブ・ラーニング支援センター”開設の背景

文部科学省が推進する高大接続システム改革は、高等学校と大学が一体となって、受動的学修から能動的学修へと教育の質的転換を図ろうとするものです。これまでのインプット重視の教育に限界をみて、アウトプット重視に移行しようとしています。教育の現場では、考える力・主体性・生涯にわたり学び続ける力を育成することが求められています。アクティブ・ラーニング（以下、AL）とは、教員と学生の双方向で展開される能動的学修です。グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどの方法を通して、学生は問題を解決していきます。高等学校でも学生を学力だけでなく多様な資質など多面的に評価することが求められ、社会のニーズも変化してきています。大学では将来の人材像を見据えて、ディプロマ、カリキュラム、アドミッションという3つのポリシーを重要視しています。多様な人材の育成に高・大・社会が一体となって取り組んでいくためには、教員の教育能力（FD）と職員の専門性（SD）を高めていく必要があります。多摩大学ではFD活動の一環として、AL技法の研究・開発、高大連携プロジェクトの推進、教育や学生の実態を把握し、教員の授業力・教育力・教員力と職員の専門性の向上に努めています。



### 多摩大学のアクティブ・ラーニング

グローバル化・少子高齢化・高度情報化社会と変化する時代に対応するには、知識の活用力・課題解決力が必要です。このような状況下で要請された学修方法がALです。本学では“ゼミカが多摩大”として授業で全面的に展開してきた実績があり、独自に4段階のALを開発しています。第1段階は「学習意欲向上型AL」。専門的知識の必要がなく、フィールドワークやプログラムへの参加を促しやる気を引き出します。第2段階は「知識定着型AL」。専門的知識が必要で、フィールドワークやディスカッションで学びを定着させます。第3段階は「課題解決型AL」。産学連携や地域連携により企業や地域の課題を解決します。第4段階は「政策提言型・社会工学型AL」。文献研究とフィールドワークを併合したALの理想型で、寺島実郎学長直轄インターゼミ（社会工学研究会）がこれに該当します。2017年度は、海外研修・企業研究・地域研究・キャリア・教養・資格など国内外における39のALプログラムを提供しています。また、今年4月からは附属・系列高校2校と連携して「高大接続アクティブ・ラーニング研究会」を設立しました。

### 学生のあらゆる問題を解決する場所

本来の教育とは学生たちの教育実態を知り、彼らの無意識かつ潜在的ニーズを掘り起こすことだと考えています。本人でさえ気づいていない問題意識を導き出し、気づいてもらう。気づきは学生を大きく変えます。多摩大学の“AL支援センター”では、12名の専門教職員が学生の生活・学修・就職・人生まであらゆる問題解決のために対応しています。学生たちの悩みを解決し学修意欲を高めることは、

キャンパスライフの充実にもつながります。“AL支援センター”は学生同士あるいは学生と教員が触れ合い、ディスカッション・学修・思索など様々な用途で利用できる知的な空間です。本や情報・友人・教職員に囲まれた環境に身を置くことで創造力や学修意欲が高まり、さらに交友関係も広がります。学修のおもしろさと醍醐味をここで体感し、楽しいキャンパスライフが過ごせることを期待しています。

### 多摩キャンパス アクティブ・ラーニング支援センター図書館 館内マップ

